

# Oracle Portal

for UNIX マニュアル・インストレーション・ガイド

リリース 3.0.8

2001 年 4 月

部品番号 : J03638-01

**ORACLE**<sup>®</sup>

---

Oracle Portal for UNIX マニュアル・インストレーション・ガイド, リリース 3.0.8

部品番号: J03638-01

原本名: Oracle9iAS Portal Manual Installation Guide for UNIX Release 3.0.8

原本部品番号: A88830-01

原本著者: Susan Léveillé

原本協力者: Ramana K. Adusumilli, Amitabh Bihari, Eric Lee, Hai Nguyen, Vinod Nimmagadda, Harry Wong

Copyright © 1996, 2000, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム(ソフトウェアおよびドキュメントを含む)の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記載された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

\* オラクル社とは、Oracle Corporation (米国オラクル) または日本オラクル株式会社 (日本オラクル) を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation (米国オラクル) およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

---

---

# Oracle9iAS Portal 3.0.8 の手動インストール (UNIX 版)

Oracle9iAS Portal 3.0.8 の製品版は、Oracle9i Application Server リリース 1.0.2.1 の CD パック（正式名称は Oracle Internet Application Server または *iAS*）で利用できます。Oracle9iAS Portal の初期インストールでは、Oracle9i Application Server の Oracle Universal Installer (OUI) を使用します。インストール手順は、『Oracle9i Application Server Installation Guide, Release 1.0.2.1 for Solaris』に記述されています。

これらの手動インストール手順は、万が一インストール時にエラーが発生した場合や手動でインストールする場合に Oracle9iAS Portal を部分的にインストールできるように用意されています。さらに、この手動処理を使用して、追加の Oracle9iAS Portal スキーマ（異なるスキーマを使用）を同一データベースまたは別のデータベースにインストールすることもできます。

最新の要件、構成およびトラブルシューティング情報については、『Oracle Portal 構成ガイド』および『Oracle Portal リリース・ノート』を参照してください。

このマニュアルの内容：

- [前提条件 \(2 ページ\)](#)
- [Oracle9iAS Portal の手動インストール \(3 ページ\)](#)
- [オンライン・ヘルプのインストール \(オプション\) \(10 ページ\)](#)
- [Oracle9iAS Portal へのログイン \(11 ページ\)](#)
- [付録 A: Mod PL/SQL ゲートウェイの設定 \(13 ページ\)](#)

## 前提条件

次に、Oracle9iAS Portal の前提条件の一覧を示します。

- Oracle9i Application Server のドキュメント・ライブラリで利用できる『Oracle Portal 構成ガイド』の第1章「要件の確認」に指定されているとおりにシステム要件が満たされていることを確認します。
- Oracle9i Application Server の OUI を備えた Oracle9i HTTP サーバーがインストールされていることを確認します。このマニュアルに記述されている手順は、この Apache HTTP リスナーがインストールされていることを前提としています。
- TNS の別名（データベース接続文字列）が Oracle HTTP サーバー用に設定されていることを確認します。
  - tnsnames.ora ファイルが <ORACLE\_HOME>/network/admin ディレクトリに保存されていることを確認します。

Oracle9i Application Server から、Oracle9i AS Portal をインストールする対象の Oracle8i データベースに接続できるように、tnsnames.ora ファイルを編集して TNS 接続文字列を設定します。

ここでの <ORACLE\_HOME> は、Oracle9i Application Server の製品ファイルがインストールされている場所です。

- 次の方法で、TNS\_ADMIN 環境変数を設定します。

コマンド・ラインから次のコマンドを実行します。

(C シェルの場合)

```
setenv TNS_ADMIN <ORACLE_HOME>/network/admin
```

ここで、<ORACLE\_HOME> は、Oracle9i Application Server の製品ファイルがインストールされている場所です。

作成した環境に合わせて httpdsctl スクリプトが正しく設定されていること (Oracle ホーム、パス、tnsnames.ora が正しいこと) を確認します。このスクリプトは、次の場所にあります。

```
<ORACLE_HOME>/Apache/Apache/bin/httpdsctl
```

この Oracle ホームの TNS の別名を使用して、SQL\*Plus 経由でログインできることを確認します。

## パッチの適用

Patch CD-ROM から ja308ux.jar を <ORACLE\_HOME> にコピーします。

コマンド・ラインで、カレント・ディレクトリを <ORACLE\_HOME> に変更して、次のコマンドを実行してください。

```
<ORACLE_HOME>/Apache/jdk/bin/jar xvf ja308ux.jar
```

## Oracle9iAS Portal の手動インストール

推定所要時間: 1 時間半～ 3 時間

次の手順に従って、Oracle9iAS Portal をインストールします。

1. まだ起動していない場合は、必ず Oracle8i データベースが実行されているようにします。
2. Oracle Portal をインストールするデータベースが動いているマシン上で、次のコマンドを実行し、データベースの Net8 リスナーが実行されていることを確認します。

```
Isnrctl start [listener_name]
```

ここでの listener\_name は、listener.ora ファイルに定義されているリスナーの名前です。LISTENER というデフォルトのリスナーを使用している場合は、リスナーを識別する必要はありません。

LSNRCTL コマンドを実行すると、TNS\_ADMIN 環境変数によって定義されたディレクトリに保存されている listener.ora ファイルが検索されます。LSNRCTL によって LISTENER というリスナーのエントリが見つからない場合は、特に指定しない限り、このコマンドによってデフォルトのリスナーが適用され、TCP/IP、ポート 1521 および IPC、キー PNPKEY でのリスニングが行われます。

3. ORCL データベースの環境変数がすべて適切に設定されていることを確認します。前述の項「[前提条件](#)」を参照してください。

ORCL データベースの <ORACLE\_HOME>/bin が、PATH 変数内で他の ORACLE\_HOME の前に設定されていることを確認します。そうでない場合は、LoadJava または JDBC タイプのエラーが発生することがあります。

4. ORCL データベースを指す作業用の TNS の別名が作成されていることを確認します。SQL\*Plus を使用して、接続をテストすることができます。
5. Oracle9i Application Server の <ORACLE\_HOME>/bin/loadjava が正しく機能していることを確認します。「loadjava -help」と入力してその機能をテストし、ヘルプの使用法を示すメッセージを表示できます。
6. コマンド・ラインで、ディレクトリを次のように変更して、環境変数 ORACLE\_HOME と ORACLE\_SID を設定した後、PL/SQL Web Toolkit パッケージをインストールするための onetime スクリプトを実行します。

```
<ORACLE_HOME>/portal30/admin/plsql
```

次のように環境変数 ORACLE\_HOME と ORACLE\_SID を設定します。

### 例

(C シェルの場合)

```
setenv ORACLE_HOME <ORACLE_HOME>
setenv ORACLE_SID <ORACLE_SID>
```

ここで <ORACLE\_HOME> は、Oracle9i Application Server の製品ファイルがインストールされている場所、<ORACLE\_SID> は Oracle9iAS Portal をインストールする対象の Oracle8i データベースの SID です。

次に onetime スクリプト・ファイルを実行します。

```
onetime [-p sys_password] [-l logfile] [-c connect_string]
```

### 例

```
onetime -p change_on_install -l onetime.log -c orcl
```

---

---

#### 注意：

- このコマンドは、Oracle9iAS Portal をインストールするデータベースごとに 1 回実行する必要があります。存在しないオブジェクトの削除に関する ORA メッセージはすべて無視して構いません。
  - Oracle9iAS Portal では、最新版の PL/SQL Web Toolkit パッケージ (Oracle Web Application (OWA) としても知られる) が必要となります。
- 
- 

7. コマンド・ラインで、次の場所から Oracle9iAS Portal のインストール・スクリプト `winstall` を実行して、Oracle9iAS Portal 製品をインストールします。

```
<ORACLE_HOME>/portal30/admin/plsql
```

実行する Oracle9iAS Portal の手動インストール・スクリプトは、次のようになります。

#### 構文 - 使用法

```
winstall <-s portal_schema> <-p sys_password> <-u default_tablespace>
<-t temporary_tablespace> <-d document_tablespace> <-l logging_tablespace>
<-w workflow_schema> <-o sso_schema> <-i pstore_password> <-r random_seed>
<-c connect_string>
```

**例**

```
winstall -s portal30 -p change_on_install -u users -t temp -d users -l users
-o portal30_sso -i portal30_sso_ps -r 12345 -c orcl > winstall.log
```

パラメータの説明は、winstall ファイルの中にあります。このファイルは、テキスト・エディタを使用して開きます。インストールを開始する前に、すべてのパラメータの妥当性チェックが行われます。

デフォルトでは、portal30、portal30\_sso、portal30\_sso\_public、portal30\_public、portal30\_demo、portal30\_sso\_ps という 6 つのスキーマが作成されます。デフォルトのベース・スキーマ名とパスワードは portal30 であり、これはインストール時に変更できます。詳細は、『Oracle Portal 構成ガイド』の「Oracle Portal のデフォルト・スキーマ」を参照してください。

次のように winstall を起動することにより、対応する Login Server をインストールしないで、Oracle9iAS Portal ノードのみをインストールします。

**構文 - 使用法**

```
winstall -s newportalnode -nosso
```

前述の例では、このコマンドを実行すると、対応する Login Server スキーマはロードされないで、Oracle9iAS Portal ノードのみが newportalnode というスキーマにインストールされます。このコマンドの使い方は、Oracle9iAS Portal の分散インストール用のノードをインストールする際に役立ちます。分散インストールについては、『Oracle Portal 構成ガイド』の第 4 章に説明されています。

8. インストール時に実行された操作と作成されたコンポーネントが記述されているインストール・セッション・ログを確認します。このログ・ファイルを検索 (GREP) して、インストール時に「ORA-」、「PLS-」、「ERROR:」が発生しなかったかどうかを確認します。winstall を上の例のように実行した場合、ログ・ファイルは次の場所にあります。

```
<ORACLE_HOME>/portal30/admin/plsql/winstall.log
```

万一「ORA-」や「PLS-」が発生した場合は、次のいずれかの対処法を講じることができます。

- インストールやログインに関する問題の解決方法については、『Oracle Portal 構成ガイド』の第 9 章「トラブルシューティング」を参照してください。
- winstall スクリプトを中止するか、再実行します。SQL\*Plus を使って作成した Oracle9iAS Portal スキーマをすべて削除する必要があります。たとえば、次のように入力します。

```
SQLPLUS > drop user <schema> cascade;
```

winstall を再実行する前に、データベースを一度停止してから再起動して、機能が停止していたり失敗しているデータベース処理をすべて解放することが必要な場

合もあります。これらの処理によって、Oracle9iAS Portal スキーマがロックされていることがあるからです。

winstall スクリプトが正常に実行され、Oracle9iAS Portal が正しくインストールされたら、次の手順に進みます。

9. コマンド・ラインで、次の場所から ssodatan スクリプトを実行します。

```
<ORACLE_HOME>/portal30/admin/plsql
```

このスクリプトでは、シングル・サインオン (SSO) サーバーを介してログインを設定します。この機能は、Oracle9iAS Portal の一部としてインストールされます。

たとえば、設定を次のようにした場合を考えます。

```
DAD                = simpledad
SSO DAD           = ssodad
Portal schema     = portal30
Host name         = myhost
IAS/Apache port  = 7777
TNS Alias        = ORCL
```

次のように、ssodatan スクリプトを1つの連続した行で実行します。ポート 80 を使用する場合は、コロン「:」とポート番号をまとめて省略します。

また、ホスト名は、<ORACLE\_HOME>/Apache/Apache/conf/httpd.conf ファイルの ServerName と一致している必要があります。

## 構文

```
ssodatan <-w portal_url> <-l login_server_url> <-s portal_schema> <-p
portal_password> <-o sso_schema> <-d sso_password> <-e pstore_schema> <-c
portal_connect_string>
```

## 例

```
ssodatan -w http://myhost:7777/pls/simpledad/
-l http://myhost:7777/pls/ssodad/ -s portal30
-p portal30 -o portal30_sso -d portal30_sso -c orcl > ssodatan.log
```

## 各項目の説明

表 0-1 ssodatan スクリプトのパラメータ

パラメータ	説明
-w portal_url	Oracle9iAS Portal ノードの DAD を指す URL。ホストの完全修飾ドメイン名を入力し、URL に http:// 接頭辞を付け、URL の末尾にスラッシュ (/) を付けます。 <b>注意:</b> 80 以外のポート番号を使用している場合は、ポート番号を Oracle9iAS Portal の URL に含めて指定します。



表 0-1 ssodatan スクリプトのパラメータ (続き)

パラメータ	説明
-l login_server_url	<p>Login Server のホストと DAD を指す URL。ホストの完全修飾ドメイン名を入力し、URL に http:// 接頭辞を付け、URL の末尾にスラッシュ (/) を付けます。</p> <p><b>注意:</b> 80 以外のポート番号を使用している場合は、ポート番号を Login Server の URL に含めて指定します。</p>
-s portal_schema	<p>Oracle9iAS Portal のコード (データベース・オブジェクト) が格納されている Oracle データベース・スキーマ。</p> <p>デフォルト = portal30</p>
-p portal_password	<p>Oracle9iAS Portal のコード (データベース・オブジェクト) が格納されている Oracle データベース・スキーマのパスワード。</p> <p>デフォルト = &lt;portal_schema&gt;</p>
-o sso_schema	<p>Login Server オブジェクトの Oracle データベース・スキーマ。</p> <p>デフォルト = &lt;portal_schema&gt;_SSO</p>
-d sso_password	<p>Login Server スキーマの Oracle データベース・パスワード。</p> <p>デフォルト = &lt;sso_schema&gt;</p>
-e pstore_schema	<p>パスワード・ストアのオブジェクトにアクセスするための Oracle データベース・スキーマ。</p>
-c portal_connect_string	<p>Oracle9iAS Portal スキーマがインストールされているデータベースの接続文字列。Oracle9iAS Portal スキーマがリモート・データベースにある場合にのみ、この接続文字列を指定する必要があります。</p> <p>デフォルト = null</p>
-loginserver	<p>スタンドアロンの Login Server のための有効な設定エントリを作成します。このパラメータには、-w、-s、-p、-e の各オプションを使用しないでください。</p>

このスクリプトは数秒間で完了します。ssodatan.log ファイルに「ORA-」または「PLS-」タイプのエラーが記録されていないことを確認します。このようなエラーが記録されていた場合は、それらを訂正してから、ssodatan スクリプトを再実行します。

10. <ORACLE\_HOME>/Apache/modplsql/cfg ディレクトリに移動します。
11. PL/SQL ゲートウェイの構成ファイル wdbsvr.app のバックアップ・コピーを取ります。

12. `wdbsvr.app` ファイルを編集します。既存のエントリを削除してから、次の初期設定を追加してください。「例」で使用されていたサンプル値以外を指定した場合は、ユーザー名、パスワード、接続文字列を置き換えてください。

```
;
[WWGATEWAY]
defaultDAD = simpledad
administrators = all
adminPath = /admin_/
admindad =
;upload_as_long_raw =
;upload_as_blob =
;debugModules =
;
[DAD_simpledad]
connect_string = orcl
password = portal30
username = portal30
default_page = portal30.home
document_table = portal30.wwdoc_document
document_path = docs
document_proc = portal30.wwdoc_process.process_download
upload_as_long_raw =
upload_as_blob = *
reuse = Yes
connmax = 10
enablesso = Yes
pathalias = url
pathaliasproc = portal30.wwpth_api_alias.process_download
;name_prefix =
;always_describe =
;after_proc =
;before_proc =
;
[DAD_ssodad]
connect_string = orcl
password = portal30_sso
username = portal30_sso
default_page = portal30_sso.wwsso_home.home
document_table = portal30_sso.wwdoc_document
document_path = docs
document_proc = portal30_sso.wwdoc_process.process_download
upload_as_long_raw =
upload_as_blob = *
reuse = Yes
connmax = 10
enablesso = Yes
```

```

pathalias = url
pathaliasproc = portal30_sso.wwpth_api_alias.process_download
;name_prefix =
;always_describe =
;after_proc =
;before_proc =
;
[DAD_sample]
connect_string = sample-tcp
password = sample
username = sample
default_page = sample.home
document_table = sample.wwdoc_document
document_path = docs
document_proc = sample.wwdoc_process.process_download
upload_as_long_raw =
upload_as_blob = *
reuse = Yes
connmax = 10
enablesso = Yes
pathalias = url
pathaliasproc = sample.wwpth_api_alias.process_download
;name_prefix =
;always_describe =
;after_proc =
;before_proc =
;

```

13. Oracle9iAS をインストールしたマシンのコマンド・ラインで、カレント・ディレクトリを <ORACLE\_HOME>/portal30/admin1/plsql に変更して、次のコマンドを実行してください。

```
langinst.csh -s portal30 -c <connect_string> -l ja -available
```

ここで <connect\_string> は、「前提条件」で設定し、「Oracle9iAS Portal の手動インストール」で使用した接続文字列です。

コマンド・ラインで、カレント・ディレクトリを <ORACLE\_HOME>/portal30/admin/plsql/nlsres/ct1/us ディレクトリに変更して、次のコマンドを実行してください。

```
sqlplus portal30/portal30@<connect_string> @wwwseedus.sql
```

ここで <connect\_string> は、「前提条件」で設定し、「Oracle9iAS Portal の手動インストール」で使用した接続文字列です。

14. 次のコマンドを使用して、Oracle HTTP サーバーを一度停止してから再起動します。

- `<ORACLE_HOME>/Apache/Apache/bin/apachectl stop`
- `<ORACLE_HOME>/Apache/Apache/bin/apachectl start`

SSL (Secure Sockets Layer) を使用している場合、起動コマンドは次のようになります。

- `<ORACLE_HOME>/Apache/Apache/bin/apachectl startssl`

---

---

**注意：**「ゲートウェイ構成メニュー (Gateway Configuration Menu)」ページにアクセスする場合は、お使いのブラウザで次の URL を入力します。

- `http://hostname:7777/pls/simpledad/admin_/gateway.htm`
  - ブラウザで開いた際、日本語が ??? と表示される場合は、NLS\_LANG の設定を確認して Oracle HTTP サーバーを再起動してください。
- 
- 

## オンライン・ヘルプのインストール（オプション）

Oracle9iAS Portal の「オンライン・ヘルプ」コンテンツ領域には、概念、基本操作、手順、トラブルシューティングを示すヘルプ・トピックがあります。

`<ORACLE_HOME>/portal30/admin/plsql/wwu` ディレクトリで、次のコマンド（1 つの連続した行）を実行します。

```
contimp.csh -s portal30 -p portal30 -o portal_help -m reuse -u database_user  
-d ../../../../doc/site/hlp30ca.dmp -c orcl
```

---

---

**注意：**

- 「-o」、「-m」、「-u」、「-d」の値は変更しないでください。
  - 「-s」、「-p」、「-c」の各オプションを環境に合わせて変更します。パラメータの説明については、そのスクリプト・ファイルを開いてコメントを参照してください。
- 
- 

この処理の所要時間は約 3 分間です。スクリプトの実行後に表示される次のメッセージは無視して構いません。

```
security.dmp: No such file or directory  
pobpage.dmp: No such file or directory  
Unable to set user acl for:
```

## Oracle9iAS Portal へのログイン

1. 次のコマンドを使用して、Oracle HTTP サーバーを一度停止してから再起動します。

- `<ORACLE_HOME>/Apache/Apache/bin/apachectl stop`
- `<ORACLE_HOME>/Apache/Apache/bin/apachectl start`

2. お使いのブラウザで、Oracle9iAS Portal のインストール先の URL を入力します。

`http://hostname:7777/pls/simpledad`

Oracle9iAS Portal の「ようこそ」ページが表示されます。

3. ページの右上にある「ログイン」リンクをクリックします。

デフォルトでは、次のユーザーでログイン可能です。

ユーザー名 : portal30

パスワード : portal30

---

---

### トラブルシューティングのヒント :

- TNS やデータベース・ログイン関連の障害が発生した場合は、`<ORACLE_HOME>/network/admin/tnsnames.ora` および TNS の別名が正しく機能しているかどうかをチェックします。
  - エラー「設定情報が有効な設定表に格納されていないため、ログインできません。(WWC-41439)」が発生した場合は、`ssodatan` スクリプトの実行に使用した値をチェックし、正しい値でそのスクリプトを再実行します。また、『Oracle Portal 構成ガイド』の「トラブルシューティング」の章も参照してください。
- 
-

## 言語の変更

Portal (3.0.8) に最初にアクセスした時の Web ブラウザの言語の設定に従って、Portal が表示するメッセージの言語が選択されます。

明示的に言語を変更したい時は、ログイン後の最初のページ右上の「カスタマイズ (Customize)」リンクをクリックし、「ポートレットの追加 (Add Portlets)」アイコン (画面左上、左端のアイコン) をクリックして、以下のポートレットをページに追加してください。このポートレットで「日本語」と「English」を切り替えることができます。

「生成済みプロバイダ (Seeded Providers)」→「Oracle Portal」→「Set Language」ポートレットをクリックし、「ポートレットの追加 (Add Portlets)」をクリックします。右側のリストに、「Oracle Portal:Set Language」ポートレットが追加されたことを確認し、「OK」をクリックします。

表示されたページ右上の「閉じる (Close)」をクリックします。

Portal のホームに戻るので、左下の「Set Language」ポートレットで「日本語」をクリックします。

英語でページが表示された場合はページ右上の「Refresh」をクリックします。

## 付録 A: Mod PL/SQL ゲートウェイの設定

Oracle Mod PL/SQL ゲートウェイは、Oracle9i Application Server の OUI コードと一緒にインストールされる、Oracle HTTP サーバーの HTTP リスナーの一部としてインストールされます。

インストール後、その構成ファイルとログ・ファイルは次の場所に保存されます。

- <ORACLE\_HOME>/Apache/modplsql/cfg
- <ORACLE\_HOME>/Apache/modplsql/log

